

第 61 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(令和元年 11 月調査)

～景況感は 2 期連続で悪化。先行きも引き続き慎重姿勢～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲15.3（前回調査比 7.1 ポイント下落）と 2 期連続で悪化した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」がいずれも悪化し、「人員・人手」は 4 期ぶりにプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲7.0（前回調査比 8.0 ポイント下落）、製造業が▲24.5（前回調査比 10.2 ポイント下落）、卸・小売業が▲21.7（前回調査比 3.4 ポイント下落）、サービス業が▲4.6（前回調査比 4.6 ポイント下落）と、すべての業種で悪化となった。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲17.6（前回調査比 12.2 ポイント下落）、村山北部が▲5.6（前回調査比 7.4 ポイント下落）、最上が 11.4（前回調査比 4.6 ポイント上昇）、置賜が▲26.4（前回調査比 7.5 ポイント上昇）、庄内田川が▲19.2（前回調査比 9.8 ポイント下落）、庄内飽海が▲20.6（前回調査比 12.5 ポイント下落）と、最上、置賜で改善したものの、その他の 4 地域で悪化となった。村山北部では D I 値がマイナスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲20.0（今回調査比 4.7 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 59.7%（前年比 3.0 ポイント低下）と、8 年ぶりの低下となった。

令和元年 12 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別 D I 値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最 上	14
④	置 賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気の天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	冬季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>		23
<参考資料 II : 調査の概要>		23

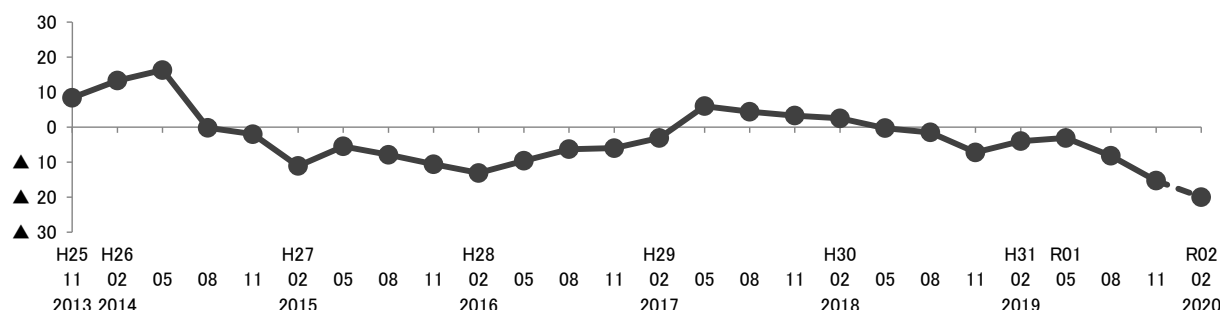
I. 県内企業の業況

1. 概況

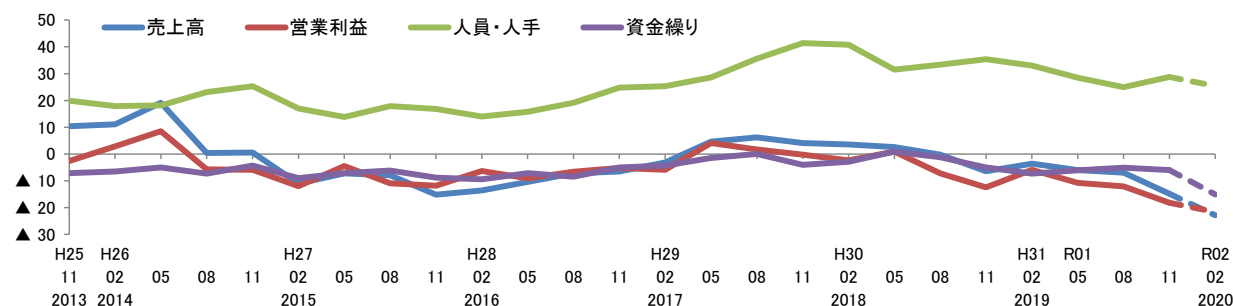
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲15.3（前回調査比7.1ポイント下落）と2期連続で悪化した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」がいずれも悪化し、「人員・人手」は4期ぶりにプラス幅が拡大した。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲20.0（今回調査比4.7ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。引き続き、米中貿易摩擦や原材料価格の上昇、人手不足の影響を懸念しているほか、消費税増税による需要減退を警戒している状況もうかがえる。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 30. 11 (n=418)	▲ 7.2	(▲ 5.7)	▲ 4.9	▲ 6.4	▲ 12.4	35.4	▲ 5.0
H 31. 02 (n=409)	▲ 4.0	(3.2)	▲ 8.9	▲ 3.6	▲ 5.9	33.0	▲ 7.3
R 01. 05 (n=415)	▲ 3.1	(0.9)	▲ 20.8	▲ 6.0	▲ 10.8	28.5	▲ 6.1
R 01. 08 (n=416)	▲ 8.2	(▲ 5.1)	▲ 18.8	▲ 7.0	▲ 12.1	25.0	▲ 5.1
R 01. 11 (n=385)	▲ 15.3	(▲ 7.1)	▲ 12.7	▲ 14.8	▲ 18.2	28.8	▲ 6.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.8)	(▲ 6.1)	(3.8)	(▲ 0.9)
先行き見通し	▲ 20.0	-	-	▲ 22.9	▲ 21.6	25.4	▲ 15.1
今回調査比	(▲ 4.7)	-	-	(▲ 8.1)	(▲ 3.4)	(▲ 3.4)	(▲ 9.1)

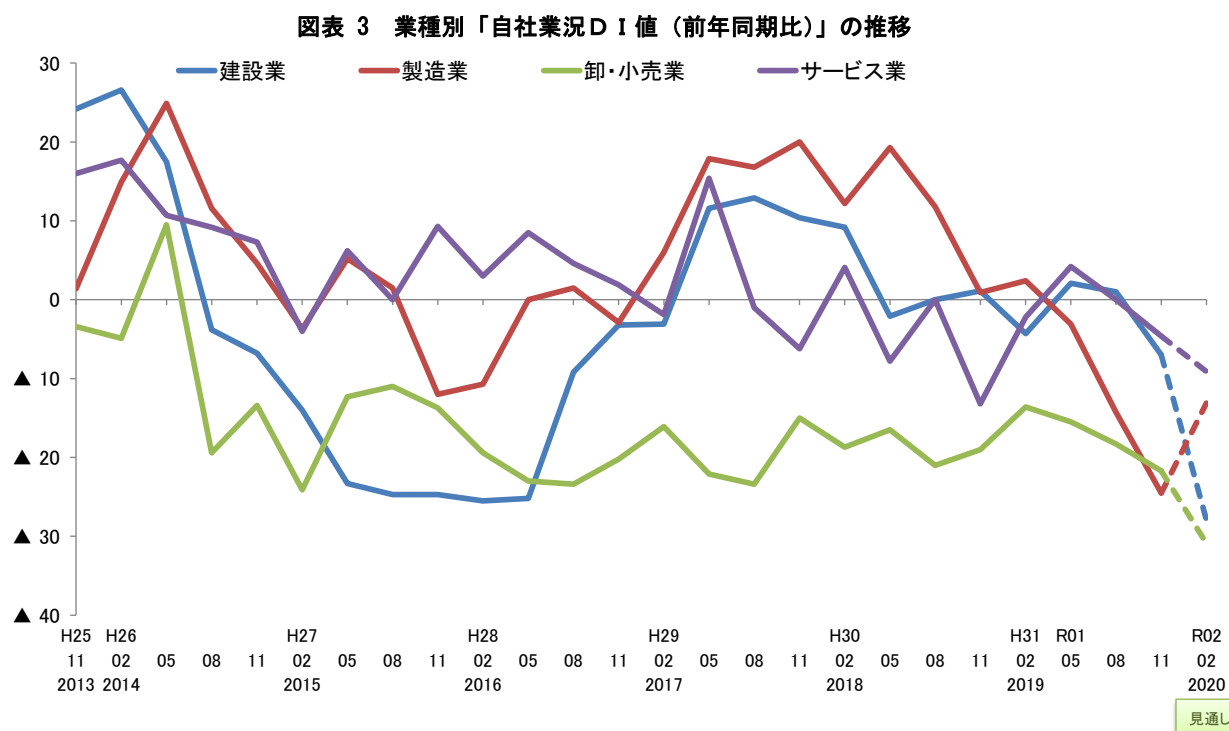
※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲7.0（前回調査比 8.0 ポイント下落）、製造業が▲24.5（前回調査比 10.2 ポイント下落）、卸・小売業が▲21.7（前回調査比 3.4 ポイント下落）、サービス業が▲4.6（前回調査比 4.6 ポイント下落）と、すべての業種で悪化となった。

業況の先行き見通しは、製造業で改善が見込まれるものの、建設業、卸・小売業、サービス業で悪化の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 30. 11 (n=418)	▲ 7.2	1.1	0.9	▲ 19.0	▲ 13.2
H 31. 02 (n=409)	▲ 4.0	▲ 4.3	2.4	▲ 13.6	▲ 2.2
R 01. 05 (n=415)	▲ 3.1	2.1	▲ 3.1	▲ 15.5	4.2
R 01. 08 (n=416)	▲ 8.2	1.0	▲ 14.3	▲ 18.3	0.0
R 01. 11 (n=385)	▲ 15.3	▲ 7.0	▲ 24.5	▲ 21.7	▲ 4.6
前回調査比	(▲ 7.1)	(▲ 8.0)	(▲ 10.2)	(▲ 3.4)	(▲ 4.6)
先行き見通し	▲ 20.0	▲ 27.9	▲ 13.1	▲ 30.9	▲ 9.1
今回調査比	(▲ 4.7)	(▲ 20.9)	(11.4)	(▲ 9.2)	(▲ 4.5)

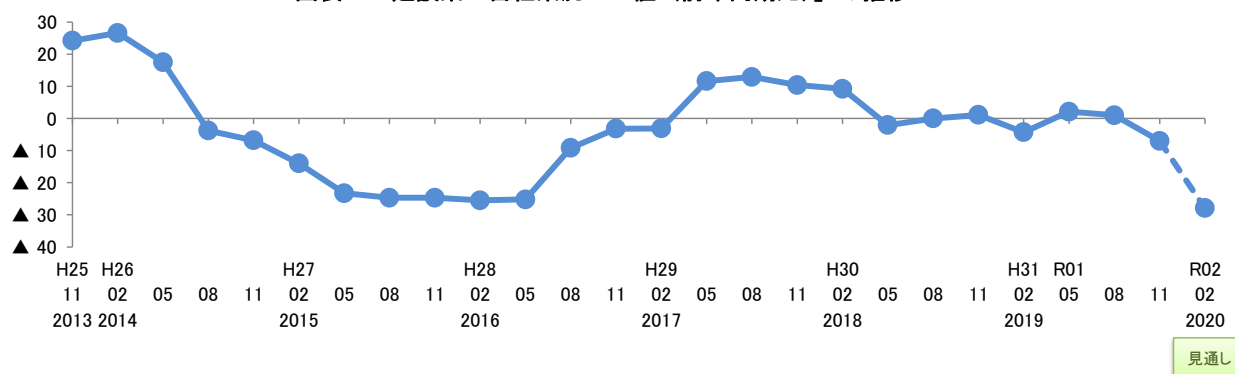
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

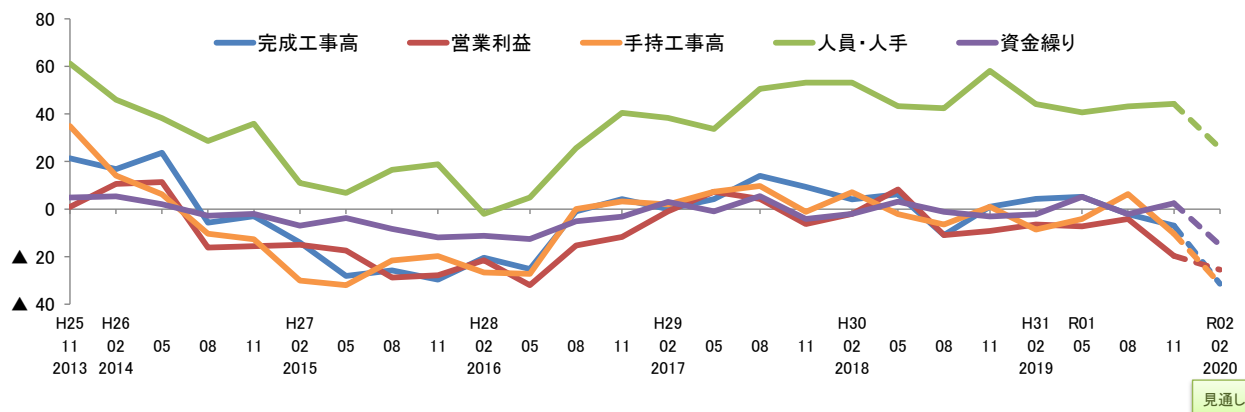
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.0（前回調査比 8.0 ポイント下落）と、2 期連続で悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」で改善したものの、「完成工事高」「営業利益」「手持工事高」が悪化した。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、受注競争の激化などによる利益率の低下や、人手不足により受注が困難な状況などがうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲27.9（今回調査比 20.9 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H 30. 11 (n=98)	1. 1	(1. 1)	▲ 10. 9	1. 0	▲ 9. 2	1. 0	58. 1	▲ 3. 1
H 31. 02 (n=93)	▲ 4. 3	(▲ 5. 4)	▲ 14. 3	4. 3	▲ 6. 5	▲ 8. 6	44. 1	▲ 2. 2
R 01. 05 (n=96)	2. 1	(6. 4)	▲ 27. 9	5. 2	▲ 7. 3	▲ 4. 2	40. 6	5. 2
R 01. 08 (n=95)	1. 0	(▲ 1. 1)	▲ 16. 6	▲ 2. 1	▲ 4. 2	6. 3	43. 2	▲ 2. 1
R 01. 11 (n=86)	▲ 7. 0	(▲ 8. 0)	▲ 14. 8	▲ 7. 0	▲ 19. 7	▲ 10. 4	44. 2	2. 4
前回調査比	-	-	-	(▲ 4. 9)	(▲ 15. 5)	(▲ 16. 7)	(1. 0)	(4. 5)
先行き見通し	▲ 27. 9	-	-	▲ 31. 4	▲ 25. 5	▲ 31. 4	25. 6	▲ 15. 1
今回調査比	(▲ 20. 9)	-	-	(▲ 24. 4)	(▲ 5. 8)	(▲ 21. 0)	(▲ 18. 6)	(▲ 17. 5)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 公共工事が減少している。特に土木工事が少ない。受注競争が激しさを増している。工事の発注金額を小さくし、数を多く見せていると感じられる。また、東京オリンピック終了後が懸念される。(村山南)
- 学校用の空調設備改修が多かったため、その他の工事発注が少ない。大型物件がないため、小さい現場に人が取られて受注金額が上がらない。(村山南)
- 増税で、民間の発注も鈍い感がある。公共工事はないし、競争も厳しい状況。建設業は万年人手不足で、求人しても応募がない。(村山北)
- 県発注の災害復旧工事が旺盛で、技術者・作業員ともに不足している。(最上)
- 今期の業況は人手不足で受注の見送りが多く、売り上げの増加につながらない。(庄内田川)
- 今期は増収だが、大型物件の利益率低下により減益の見込み。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

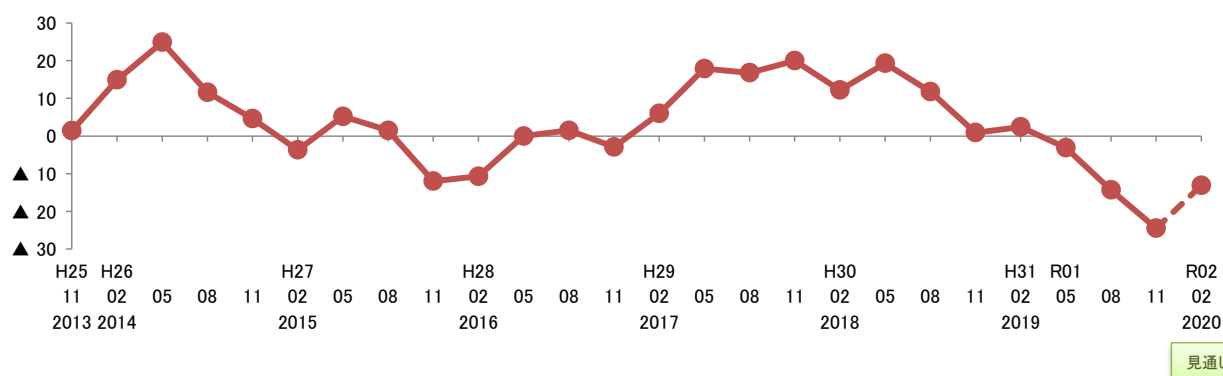
- 来年の4月から始まる働き方改革の対応に苦慮している。(村山南)
- 最大の課題は人員不足。特に建設技術者が不足しており、現場配置に支障をきたすような状態が続いている。新規学卒者の採用を強化するなど、長期的な視野で対応していく予定である。(最上)
- 来春までの仕事が非常に薄い。住宅新築・リフォームも消費増税の影響もあり、非常に低調である。残りの2四半期は耐える期間となりそうである。この期間に来期に向けた受注の確保に奔走したい。(置賜)
- 民間の工場棟の新規大型物件受注の見通しが見えない。全体的に、中国や海外向けの工場関連の投資が減少しているように感じる。今期も厳しいが、来期以降も厳しい状況。(置賜)
- 来春、新卒(高卒)が1人入社する。3年間募集して、やっと1人という状況。もう2~3人は必要なので頑張りたい。(庄内田川)
- 中途退職者が増加し、条件の良い方へ雇用の流動化が進んでいる。離職の防止策と高年齢者雇用施策を具体的に検討中である。(庄内飽海)

② 製造業

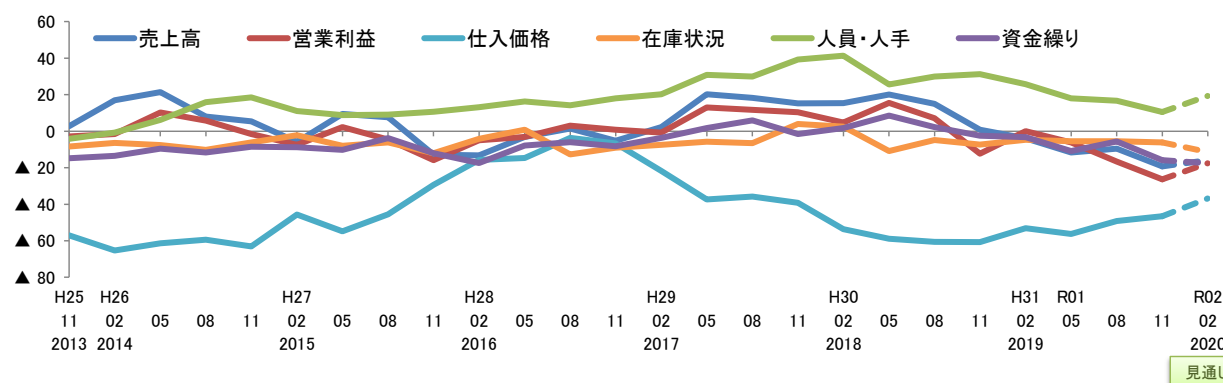
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲24.5（前回調査比 10.2 ポイント下落）と 3 期連続で悪化した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」が 2 期連続で改善、「在庫状況」がほぼ横ばいとなったものの、「営業利益」が 3 期連続で悪となり、「売上高」「資金繰り」も悪化となった。「人員・人手」は 4 期連続でプラス幅が縮小となり、人手不足感はやや弱まっている。各社のコメントからは、原材料価格の上昇による利益減少の様子がうかがえるほか、米中貿易摩擦や中国経済の減速の影響、消費税増税による需要の減少を懸念する状況がみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲13.1（今回調査比 11.4 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 30. 11 (n=122)	0.9	(▲ 10.9)	7.8	0.8	▲ 12.3	▲ 60.7	▲ 7.3	31.2	▲ 2.4
H 31. 02 (n=128)	2.4	(1.5)	1.7	▲ 3.9	0.0	▲ 53.1	▲ 4.7	25.8	▲ 3.2
R 01. 05 (n=128)	▲ 3.1	(▲ 5.5)	▲ 12.5	▲ 11.7	▲ 6.2	▲ 56.2	▲ 5.5	18.0	▲ 10.9
R 01. 08 (n=126)	▲ 14.3	(▲ 11.2)	▲ 16.4	▲ 9.5	▲ 16.7	▲ 49.2	▲ 5.5	16.7	▲ 5.6
R 01. 11 (n=114)	▲ 24.5	(▲ 10.2)	▲ 15.9	▲ 19.3	▲ 26.3	▲ 46.5	▲ 6.1	10.5	▲ 15.8
前回調査比	-	-	-	(▲ 9.8)	(▲ 9.6)	(2.7)	(▲ 0.6)	(▲ 6.2)	(▲ 10.2)
先行き見通し	▲ 13.1	-	-	▲ 15.8	▲ 17.5	▲ 36.8	▲ 11.4	19.3	▲ 17.5
今回調査比	(11.4)	-	-	(3.5)	(8.8)	(9.7)	(▲ 5.3)	(8.8)	(▲ 1.7)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 材料のほか、運賃などの値上がり利益を圧迫している。(村山南)
- 業況悪化の大きな要因として、原料の高騰による利益の減少が挙げられる。(置賜)
- 春頃から、景気動向、気候の関係で、良い状況でないところに、台風の影響、世界経済の減退、消費税増税等でさらに良くない傾向である。(置賜)
- 通信業界は、5G サービス関連で受注が増加している。しばらく 5G サービス関連が続くと思われ、好況となりそうである。(置賜)
- 消費税の駆け込み需要もなく、10 月の仕事量は激減している。仕入価格は増大しており、予想を超えて UP している。(庄内飽海)
- 業界に関しては増税前の駆け込みは直前にあったようだが、恩恵は大手のみの感がしている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

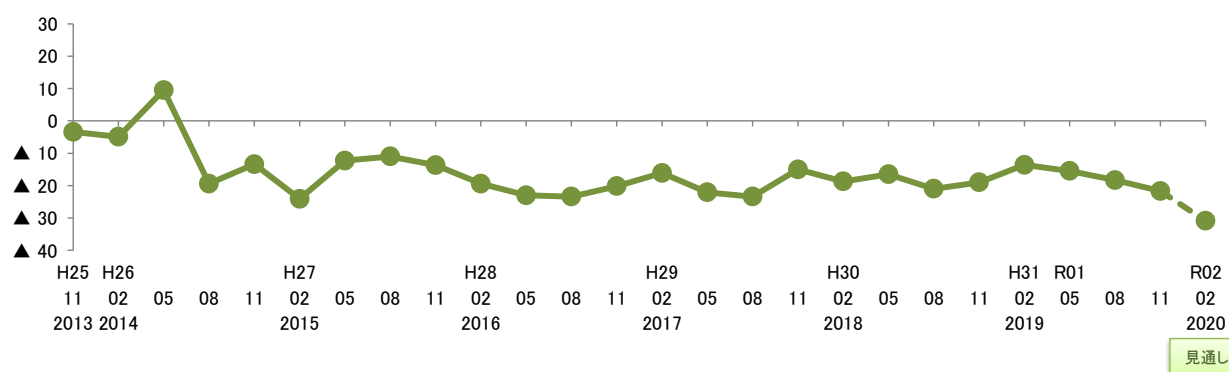
- 増税と増税に伴う反動のため、厳しい状況が予想される。(村山南)
- 今期は前期の 10%減くらいの予定。しかし、来期は中国・米国の貿易事情などを考慮すると、一段と下げが考えられるため全く見えない。(村山南)
- キャッシュレス還元で、手数料負担が増えてくるので対応策を検討中である。(村山南)
- 原材料が天候の影響を受けて入りにくくなっている。(村山北)
- 消費増税、原材料の仕入価格の上昇が今後どう響いてくるのか危惧している。輸出など、増加が見込める分野を強化していくことが重要と考えている。(村山北)
- 働き方改革、生産性向上など、多方面に渡り実行している。引き続き、弊社しか出来ないことを見つけ育てていきたい。(最上)
- 米中貿易摩擦の激化により、株価の下落や円高の懸念がある。(置賜)
- 来期は設備投資の効果により、利益増の見込み。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

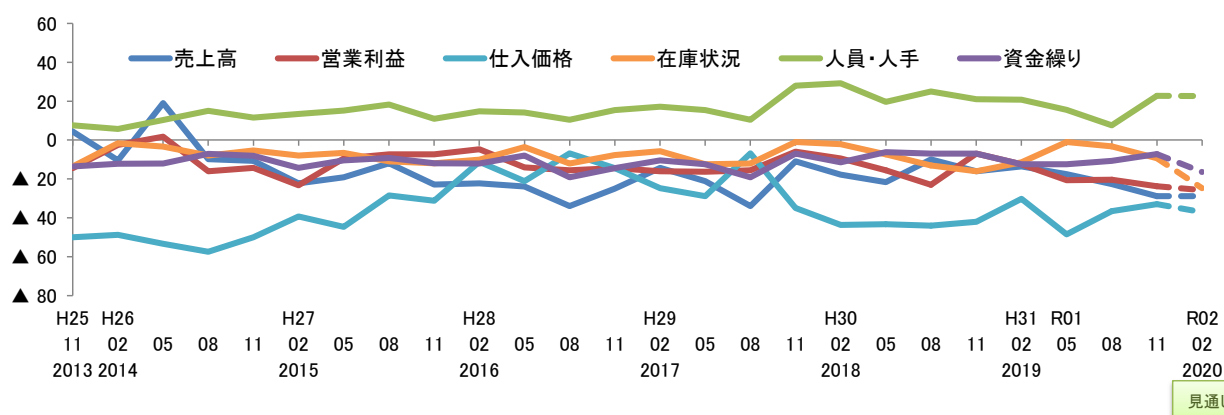
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲21.7（前回調査比 3.4 ポイント下落）と 3 期連続で悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」「資金繰り」が改善したものの、「売上高」が 3 期連続、「在庫状況」が 2 期連続で悪化したほか、「営業利益」も 2 期ぶりに悪化となった。「人員・人手」は 22.7（前回調査比 15.1 ポイント上昇）と 5 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、消費税増税前の駆け込み需要にばらつきのある状況が見受けられたほか、増税前から消費意欲の低下を感じている企業もみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲30.9（今回調査比 9.2 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 30.11 (n=100)	▲ 19.0	(2.0)	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 7.0	▲ 42.0	▲ 16.0	21.0	▲ 7.0
H 31.02 (n=96)	▲ 13.6	(5.4)	▲ 15.0	▲ 13.5	▲ 12.5	▲ 30.2	▲ 11.5	20.8	▲ 12.5
R 01.05 (n=97)	▲ 15.5	(▲ 1.9)	▲ 31.3	▲ 17.5	▲ 20.7	▲ 48.5	▲ 1.0	15.5	▲ 12.4
R 01.08 (n=93)	▲ 18.3	(▲ 2.8)	▲ 19.6	▲ 22.6	▲ 20.4	▲ 36.6	▲ 3.2	7.6	▲ 10.7
R 01.11 (n=97)	▲ 21.7	(▲ 3.4)	▲ 12.9	▲ 28.8	▲ 23.7	▲ 33.0	▲ 9.3	22.7	▲ 7.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.2)	(▲ 3.3)	(3.6)	(▲ 6.1)	(15.1)	(3.5)
先行き見通し	▲ 30.9	-	-	▲ 28.9	▲ 25.8	▲ 37.1	▲ 24.7	22.6	▲ 16.4
今回調査比	(▲ 9.2)	-	-	(▲ 0.1)	(▲ 2.1)	(▲ 4.1)	(▲ 15.4)	(▲ 0.1)	(▲ 9.2)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 消費税増税前の駆け込み需要は日用品や生活必需品に限定され、当業界への影響はほとんど見られなかった。増税前の消費意欲の低下が大きく、来店客数の減少が続いている。(村山南)
- 今期は減収減益。消費税増税に伴い、軽減税率・キャッシュレス促進の施策はあるものの、客数減がみられる。(村山南)
- 5月の大型連休や改元で、業績を支えるイベントがあったものの、その後は前年割れの状況が続いている。(村山北)
- 高額な商品ほど動きが悪い。景気の低迷感がある。(庄内田川)
- 消費税増税、度重なる台風の影響で、消費は想像以上に冷え込んでいると思う。居酒屋、スナック等の閉店が多くなってきて、世代交代、時代の変化を感じている。(庄内田川)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 消費税増税以降は、買い控えによる来店客数の減少が予想され、キャッシュレス還元等の効果は限定的と思われる。(村山南)
- 結果的に消費税増税前の仮需がかなりあったと思われるので、今後の情勢を注視していく必要がある。(村山南)
- 増税前・増税後とも、厳しい状況は変わらない。競争激化で消費税転嫁を躊躇することがある。(置賜)
- ネット通販が主流になり、さらに近隣都市への買い物客の流出で小売業はかなり厳しい。(置賜)
- 「道の駅」効果で観光客が市内へ流入しており業績は好調。ただ、地元の消費者動向は低調に推移している。今期は前年並みで推移しているが、来期は「道の駅」効果がどこまで続くかだと思う。順調に観光客が伸びれば地元が冷え込んでも前年並みで推移すると思う。(置賜)
- 来期は売り上げ・利益ともに下がる見通しのため、決算対応の必要がある。(庄内田川)
- 年末商品を早めに出して、少しでも売り上げ増に結び付けたい。(庄内飽海)

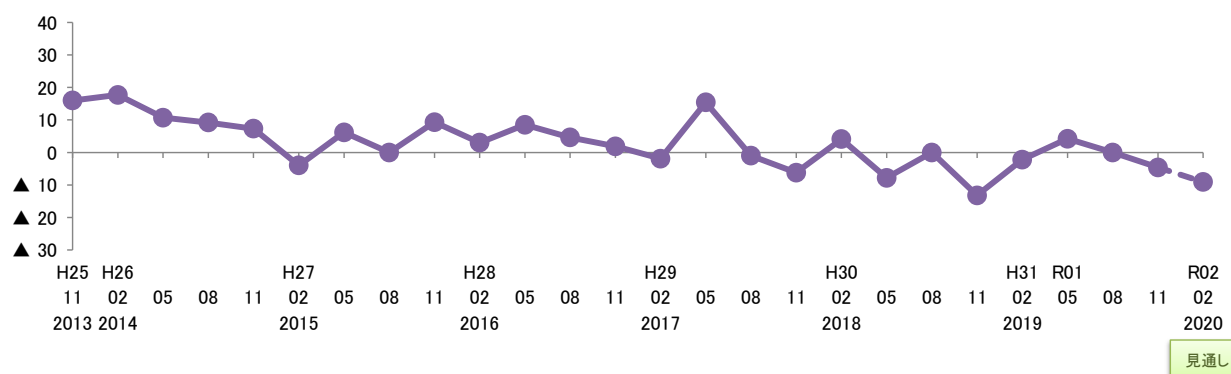
④ サービス業

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲4.6（前回調査比 4.6 ポイント下落）と 2 期連続で悪化した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「営業利益」「資金繰り」が改善したものの、「売上高」が悪化となった。

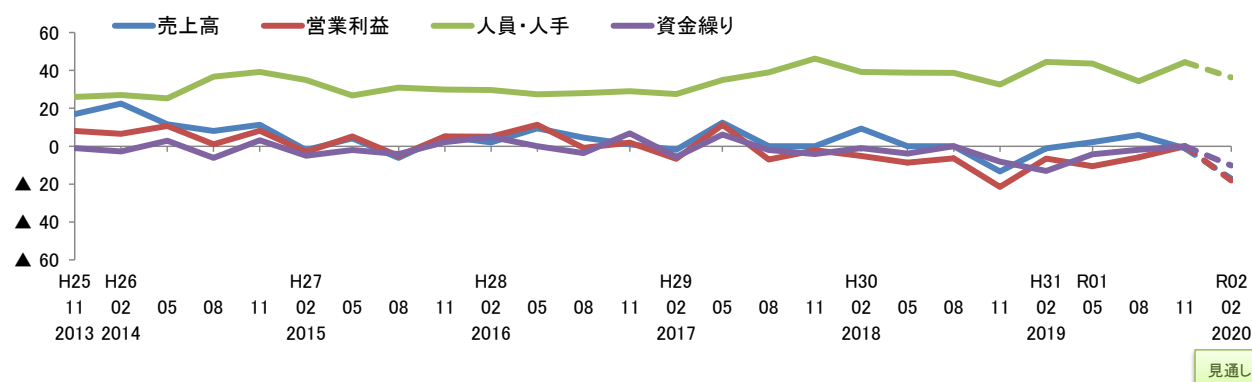
「人員・人手」は 3 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、旅館・ホテルや旅客運送業をはじめとして、台風や悪天候による影響がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲9.1（今回調査比 4.5 ポイント下落）とさらなる悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	人員 人手	資金 繰り
		前回調査比	前回調査予測				
H 30. 11（n=98）	▲ 13. 2	（▲ 13. 2）	▲ 5. 4	▲ 13. 3	▲ 21. 5	32. 6	▲ 8. 2
H 31. 02（n=92）	▲ 2. 2	（11. 0）	▲ 10. 2	▲ 1. 1	▲ 6. 5	44. 5	▲ 13. 1
R 01. 05（n=94）	4. 2	（6. 4）	▲ 14. 1	2. 2	▲ 10. 6	43. 6	▲ 4. 3
R 01. 08（n=102）	0. 0	（▲ 4. 2）	▲ 23. 4	5. 9	▲ 5. 9	34. 3	▲ 1. 9
R 01. 11（n=88）	▲ 4. 6	（▲ 4. 6）	▲ 6. 9	▲ 1. 1	0. 0	44. 4	0. 0
前回調査比	－	－	－	（▲ 7. 0）	（5. 9）	（10. 1）	（1. 9）
先行き見通し	▲ 9. 1	－	－	▲ 17. 1	▲ 18. 1	36. 4	▲ 10. 2
今回調査比	（▲ 4. 5）	－	－	（▲ 16. 0）	（▲ 18. 1）	（▲ 8. 0）	（▲ 10. 2）

Q. 今期の業況について

業界の声

- 10 月からの消費税増税と台風 15、19 号の影響で、心理的な影響もあり、売り上げが前年比大きくマイナスとなった。(村山南)
- 人員不足が外注費増加につながり、利益を圧迫している。取り扱い物量も減少しており、厳しい状況である。(村山南)
- 景気の減少傾向が改善せず、前期に比べプラス材料が見当たらない。(村山南)
- 10 月の天候不順、そして相次ぐ台風の影響が大きい。また、人員確保がうまくいかず、売り上げの向上にブレーキがかかっている。(置賜)
- 懸案であった主取引先との価格交渉に進展があり、売り上げ・利益とも純増になる。(庄内田川)
- 今期は、前期より増収増益で終わった。しかし、車検制度の改定、働き方改革、人出不足など、さまざまな事が目の前までできているので、しっかりと情報収集に努めながら事業展開していかなければと思っている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 目立ってインバウンドのお客さまが増加しているので、外国人の社員や派遣社員の雇用を実施し、計画もしている。(村山南)
- 売り上げが伸びない分、経費項目の見直しに着手している。(村山北)
- 慢性的な人手不足が続いている。(最上)
- 最低賃金も上がり、自助努力だけでは営業利益を確保できない状況になると推測される。(置賜)
- 若い人を雇用するのが難しい。(庄内田川)
- ドライバーの人手不足により業界として仕事の選別が行われており、新規獲得に向かう余裕がある企業や特殊な業務を行っている企業には追い風となっている。一般貨物については物量の減少が始まっており、オリンピックに向けた好況感は薄れている。(庄内田川)
- 人員不足により、事業を縮小するところもでてきている。今後は社員の高齢化や人員不足が深刻になっていくように思える。(庄内田川)
- 消費税増税の影響で、来期はかなり厳しい状況になると思える。(庄内飽海)

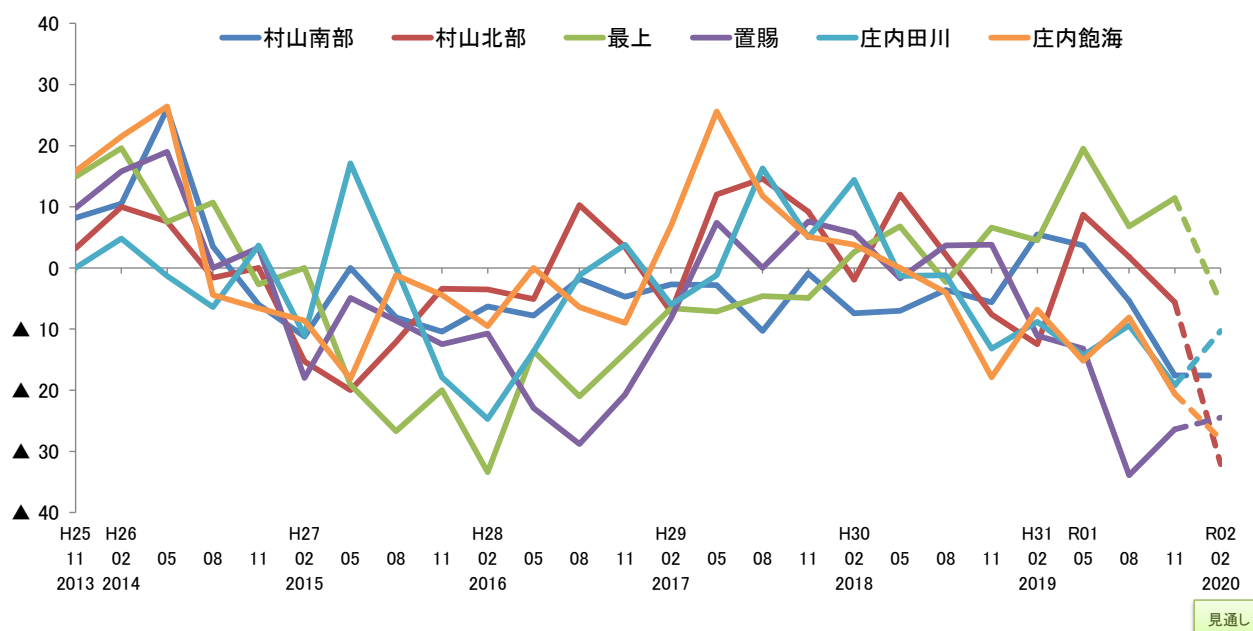
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲17.6（前回調査比 12.2 ポイント下落）、村山北部が▲5.6（前回調査比 7.4 ポイント下落）、最上が 11.4（前回調査比 4.6 ポイント上昇）、置賜が▲26.4（前回調査比 7.5 ポイント上昇）、庄内田川が▲19.2（前回調査比 9.8 ポイント下落）、庄内飽海が▲20.6（前回調査比 12.5 ポイント下落）と、最上と置賜で改善したもの、その他の 4 地域で悪化となった。村山北部ではDI値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、村山南部が横ばい、置賜と庄内田川で改善が見込まれるものの、村山北部、最上、庄内飽海では悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 30. 11 (n=418)	▲ 7.2	▲ 5.6	▲ 7.6	6.6	3.8	▲ 13.2	▲ 17.9
H 31. 02 (n=409)	▲ 4.0	5.5	▲ 12.5	4.5	▲ 11.1	▲ 8.8	▲ 6.8
R 01. 05 (n=415)	▲ 3.1	3.7	8.7	19.5	▲ 13.2	▲ 14.3	▲ 15.2
R 01. 08 (n=416)	▲ 8.2	▲ 5.4	1.8	6.8	▲ 33.9	▲ 9.4	▲ 8.1
R 01. 11 (n=385)	▲ 15.3	▲ 17.6	▲ 5.6	11.4	▲ 26.4	▲ 19.2	▲ 20.6
前回調査比	(▲ 7.1)	(▲ 12.2)	(▲ 7.4)	(4.6)	(7.5)	(▲ 9.8)	(▲ 12.5)
先行き見通し	▲ 20.0	▲ 17.6	▲ 32.1	▲ 5.7	▲ 24.5	▲ 10.3	▲ 28.0
今回調査比	(▲ 4.7)	(0.0)	(▲ 26.5)	(▲ 17.1)	(1.9)	(8.9)	(▲ 7.4)

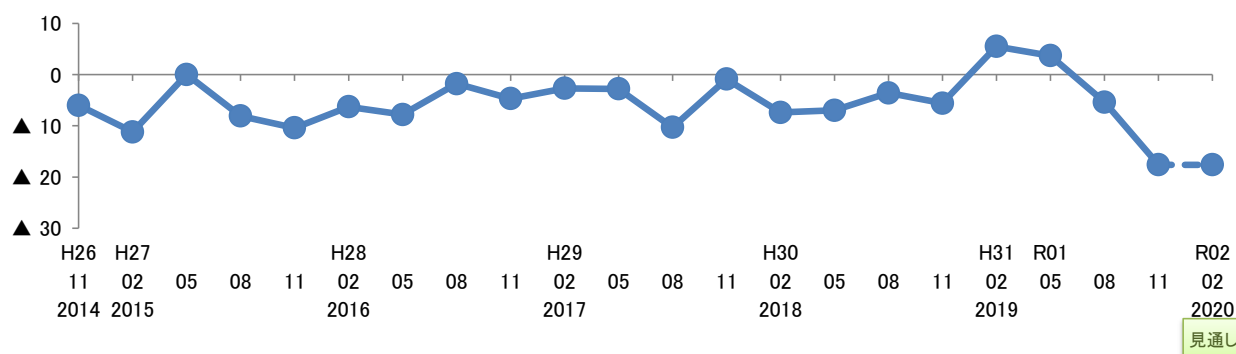
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

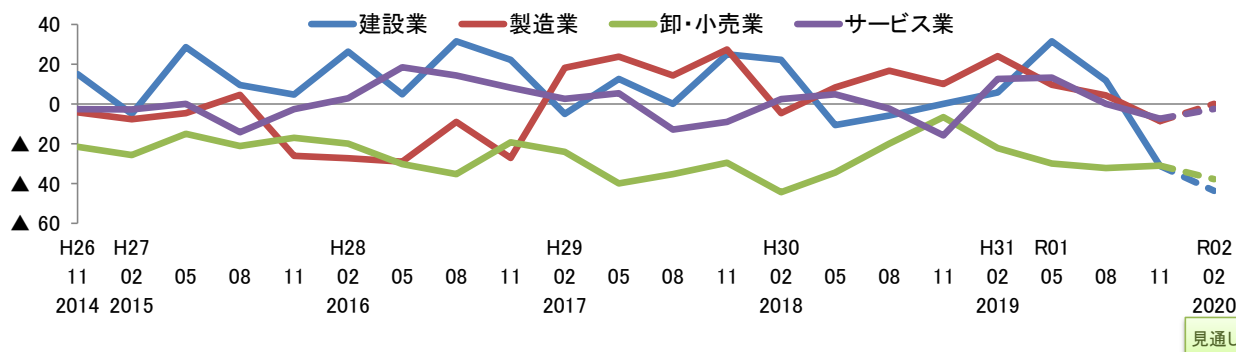
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲17.6（前回調査比 12.2 ポイント下落）と 3 期連続で悪化となった。
業種別にみると、建設業、製造業、サービス業で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲17.6（今回調査比±0.0 ポイント）と横ばいの見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

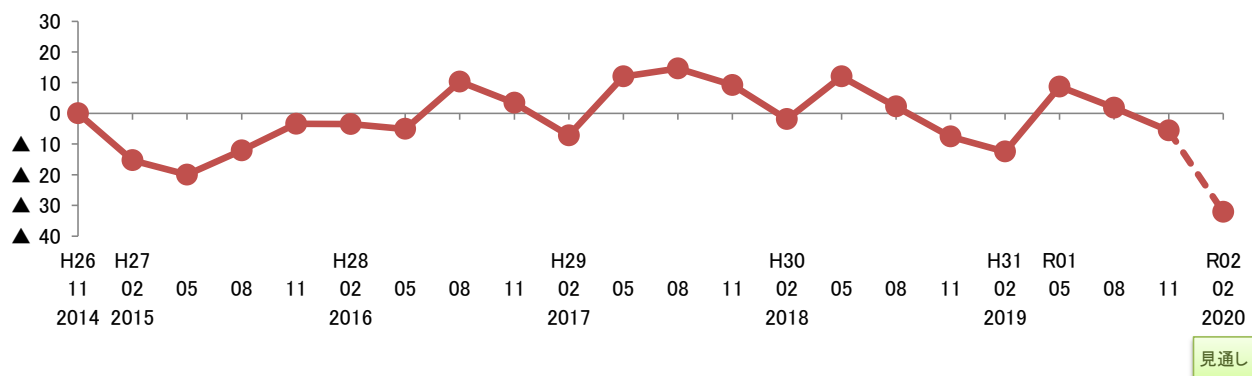
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 30.11 (n=106)	▲ 5.6	(▲ 2.0)	▲ 9.8	0.0	10.0	▲ 6.7	▲ 15.8
H 31.02 (n=109)	5.5	(11.1)	▲ 8.5	5.8	24.0	▲ 22.2	12.5
R 01.05 (n=108)	3.7	(▲ 1.8)	▲ 12.9	31.5	9.6	▲ 30.0	13.2
R 01.08 (n=112)	▲ 5.4	(▲ 9.1)	▲ 12.9	11.7	4.3	▲ 32.2	0.0
R 01.11 (n=108)	▲ 17.6	(▲ 12.2)	▲ 5.3	▲ 31.2	▲ 8.7	▲ 31.0	▲ 7.5
前回調査比	-	-	-	(▲ 42.9)	(▲ 13.0)	(1.2)	(▲ 7.5)
先行き見通し	▲ 17.6	-	-	▲ 43.7	0.0	▲ 37.9	▲ 2.5
今回調査比	(0.0)	-	-	(▲ 12.5)	(8.7)	(▲ 6.9)	(5.0)

② 村山北部

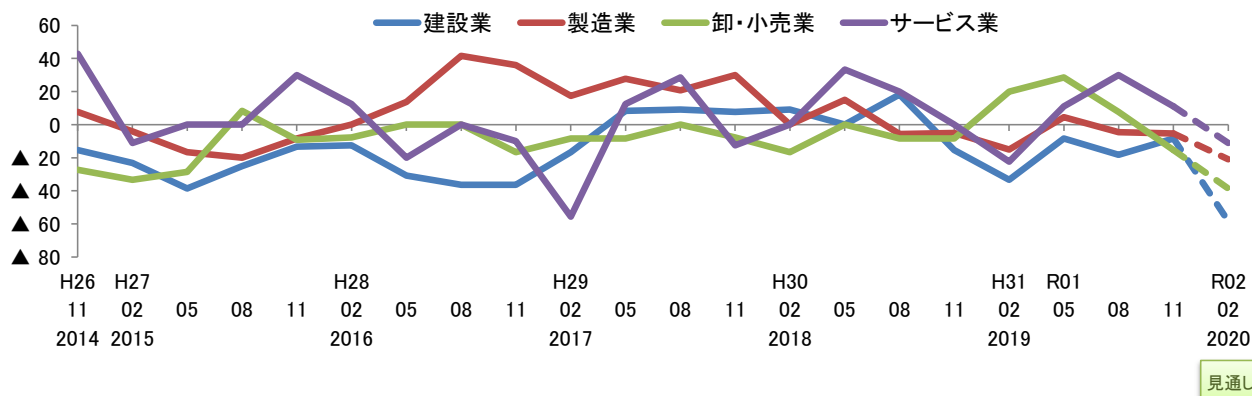
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲5.6（前回調査比 7.4 ポイント下落）と 2 期連続で悪化した。業種別にみると、製造業、卸・小売業、サービス業で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲32.1（今回調査比 26.5 ポイント下落）とさらなる悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

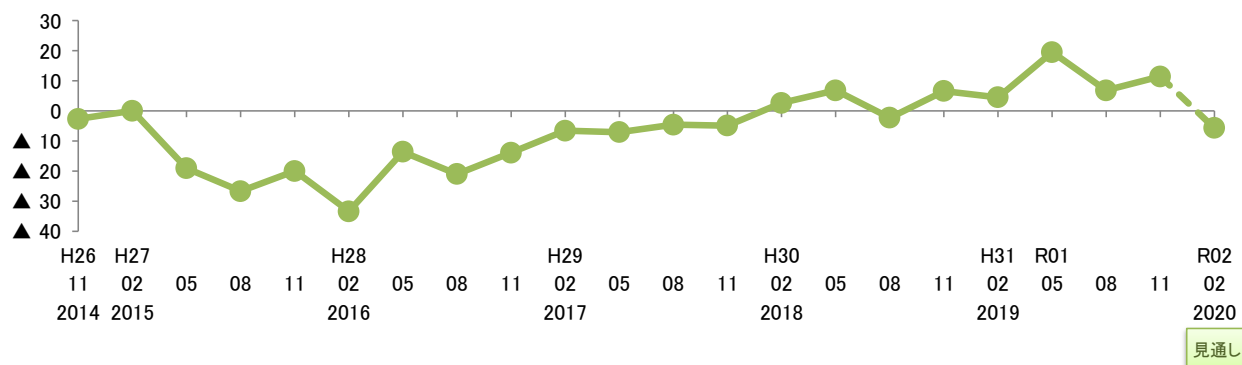
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 30. 11 (n=53)	▲ 7. 6	(▲ 9. 8)	8. 7	▲ 15. 4	▲ 5. 0	▲ 8. 3	0. 0
H 31. 02 (n=48)	▲ 12. 5	(▲ 4. 9)	1. 9	▲ 33. 3	▲ 15. 0	20. 0	▲ 22. 3
R 01. 05 (n=57)	8. 7	(21. 2)	▲ 31. 3	▲ 8. 4	4. 6	28. 6	11. 1
R 01. 08 (n=56)	1. 8	(▲ 6. 9)	▲ 3. 6	▲ 18. 2	▲ 4. 6	7. 7	30. 0
R 01. 11 (n=53)	▲ 5. 6	(▲ 7. 4)	▲ 7. 1	▲ 8. 3	▲ 5. 3	▲ 15. 4	11. 1
前回調査比	-	-	-	(9. 9)	(▲ 0. 7)	(▲ 23. 1)	(▲ 18. 9)
先行き見通し	▲ 32. 1	-	-	▲ 58. 3	▲ 21. 0	▲ 38. 5	▲ 11. 1
今回調査比	(▲ 26. 5)	-	-	(▲ 50. 0)	(▲ 15. 7)	(▲ 23. 1)	(▲ 22. 2)

③ 最 上

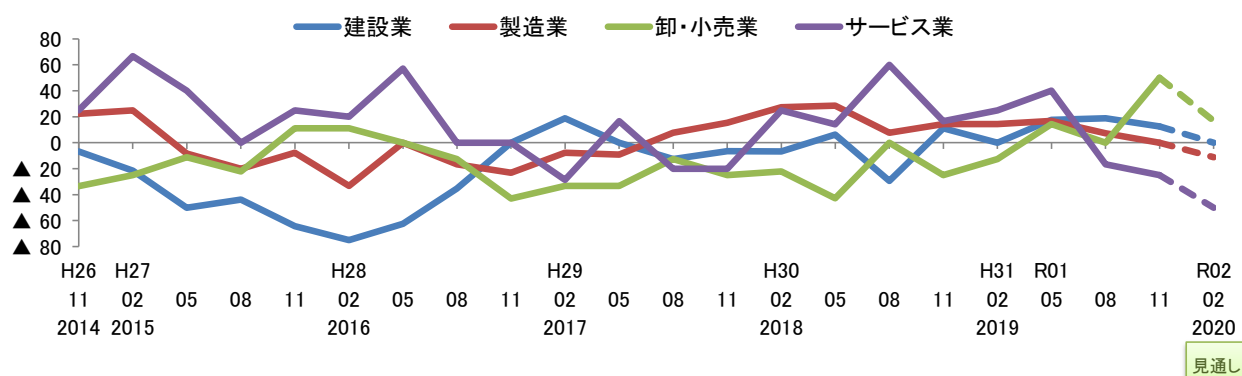
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 11.4（前回調査比 4.6 ポイント上昇）と改善した。業種別にみると、卸・小売業で大幅な改善となり、その他の 3 業種では悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲5.7（今回調査比 17.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

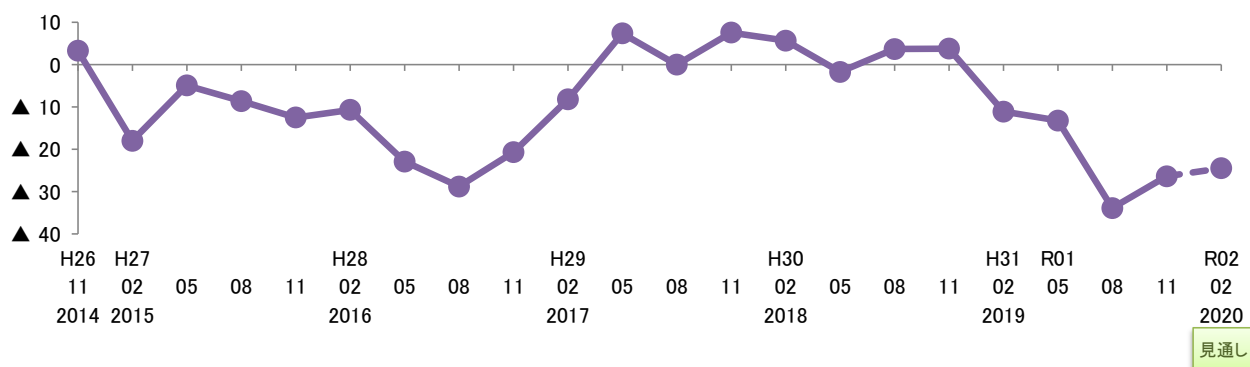
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
H 30. 11 (n=46)	6.6	(8.9)	▲ 7.0	11.1	14.3	▲ 25.0	16.6
H 31. 02 (n=44)	4.5	(▲ 2.1)	0.0	0.0	14.3	▲ 12.5	25.0
R 01. 05 (n=41)	19.5	(15.0)	▲ 9.0	17.7	16.7	14.3	40.0
R 01. 08 (n=44)	6.8	(▲ 12.7)	4.9	18.8	7.2	0.0	▲ 16.7
R 01. 11 (n=35)	11.4	(4.6)	2.2	12.5	0.0	50.0	▲ 25.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.3)	(▲ 7.2)	(50.0)	(▲ 8.3)
先行き見通し	▲ 5.7	-	-	0.0	▲ 11.1	16.7	▲ 50.0
今回調査比	(▲ 17.1)	-	-	(▲ 12.5)	(▲ 11.1)	(▲ 33.3)	(▲ 25.0)

④ 置 賜

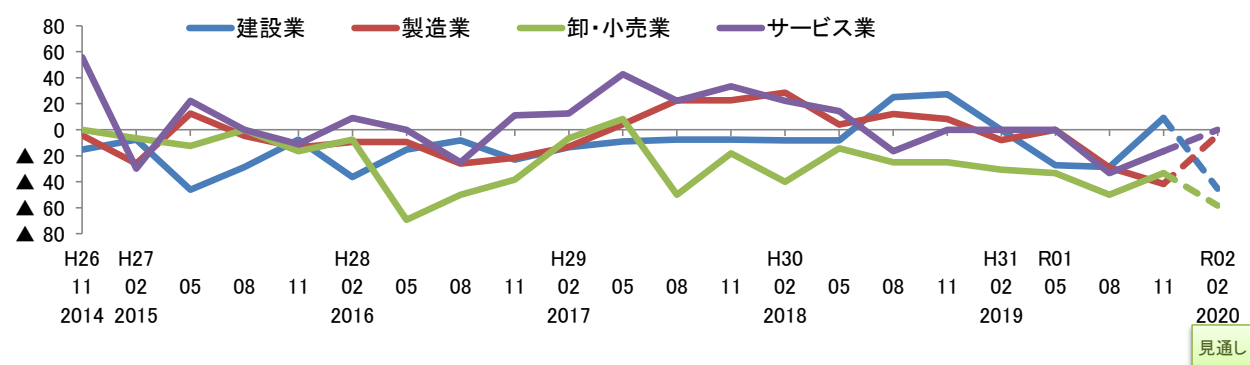
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲26.4（前回調査比 7.5 ポイント上昇）と 4 期ぶりに改善となった。
業種別にみると、製造業で悪化したものの、建設業、卸・小売業、サービス業で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲24.5（今回調査比 1.9 ポイント上昇）と悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

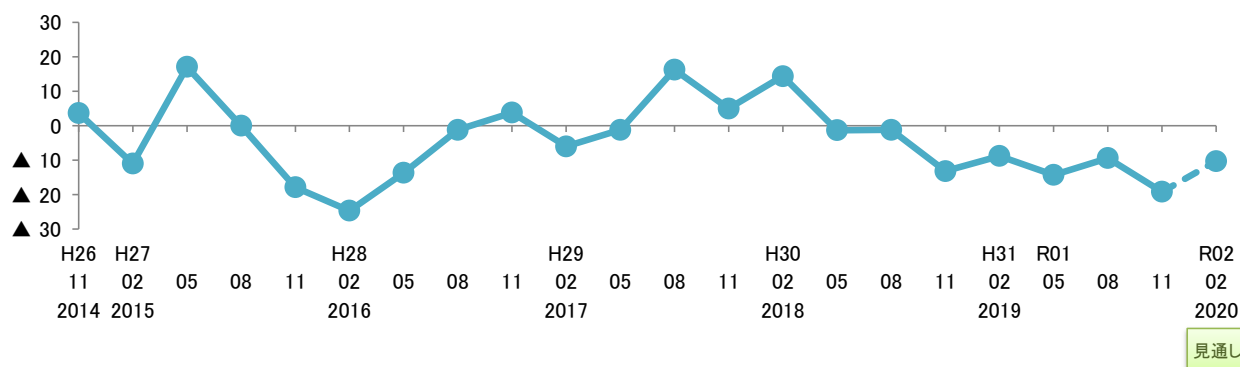
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
H 30. 11 (n=53)	3.8	(0.1)	0.0	27.3	8.3	▲ 25.0	0.0
H 31. 02 (n=54)	▲ 11.1	(▲ 14.9)	▲ 9.4	0.0	▲ 8.0	▲ 30.8	0.0
R 01. 05 (n=53)	▲ 13.2	(▲ 2.1)	▲ 24.0	▲ 27.2	0.0	▲ 33.3	0.0
R 01. 08 (n=56)	▲ 33.9	(▲ 20.7)	▲ 24.5	▲ 28.6	▲ 29.1	▲ 50.0	▲ 33.3
R 01. 11 (n=53)	▲ 26.4	(7.5)	▲ 35.7	9.1	▲ 41.6	▲ 33.4	▲ 16.6
前回調査比	-	-	-	(37.7)	(▲ 12.5)	(16.6)	(16.7)
先行き見通し	▲ 24.5	-	-	▲ 45.4	▲ 4.2	▲ 58.3	0.0
今回調査比	(1.9)	-	-	(▲ 54.5)	(37.4)	(▲ 24.9)	(16.6)

⑤ 庄内田川

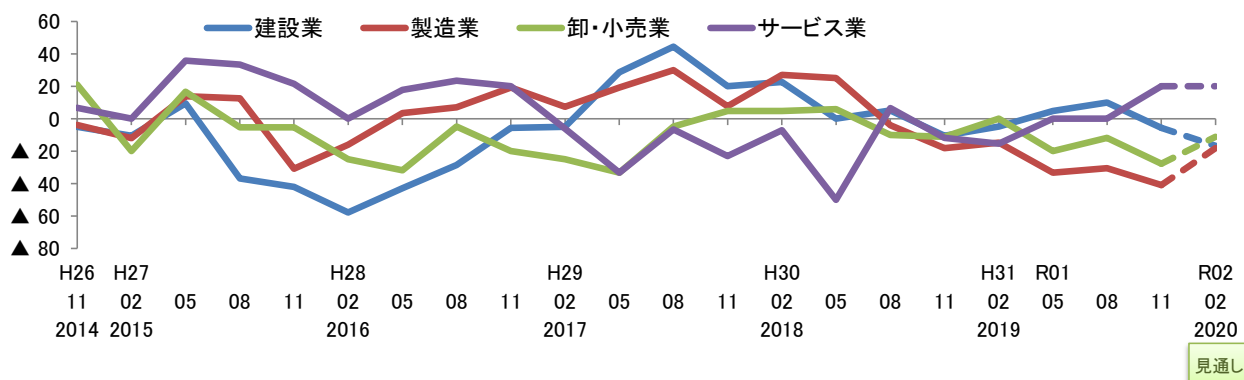
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲19.2（前回調査比 9.8 ポイント下落）と悪化となった。業種別にみると、サービス業で改善したものの、建設業、製造業、卸・小売業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲10.3（今回調査 8.9 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

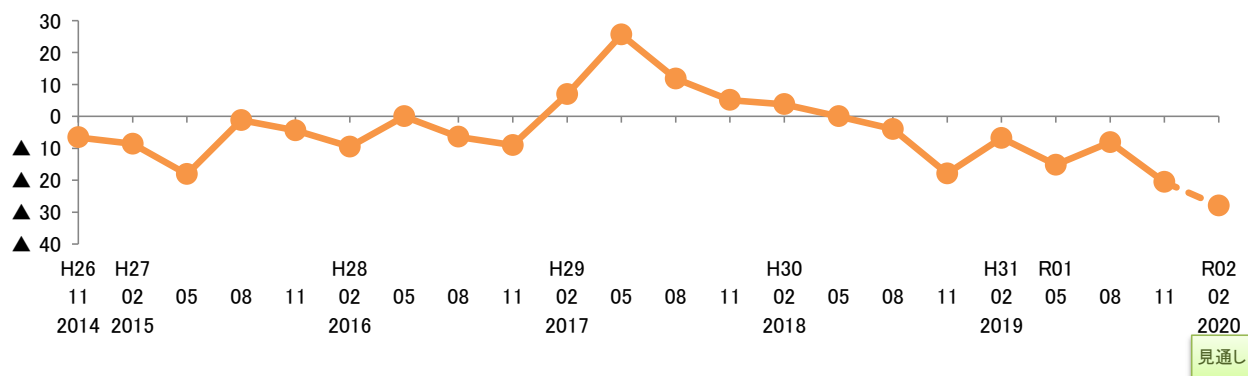
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 30.11 (n=76)	▲ 13.2	(▲ 12.0)	▲ 16.2	▲ 10.5	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 11.8
H 31.02 (n=80)	▲ 8.8	(4.4)	▲ 14.5	▲ 4.8	▲ 14.8	0.0	▲ 15.4
R 01.05 (n=77)	▲ 14.3	(▲ 5.5)	▲ 31.3	4.7	▲ 33.3	▲ 20.0	0.0
R 01.08 (n=74)	▲ 9.4	(4.9)	▲ 35.1	10.0	▲ 30.5	▲ 11.8	0.0
R 01.11 (n=68)	▲ 19.2	(▲ 9.8)	▲ 18.9	▲ 5.6	▲ 41.0	▲ 27.7	20.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 15.6)	(▲ 10.5)	(▲ 15.9)	(20.0)
先行き見通し	▲ 10.3	-	-	▲ 16.7	▲ 18.2	▲ 11.1	20.0
今回調査比	(8.9)	-	-	(▲ 11.1)	(22.8)	(16.6)	(0.0)

⑥ 庄内飽海

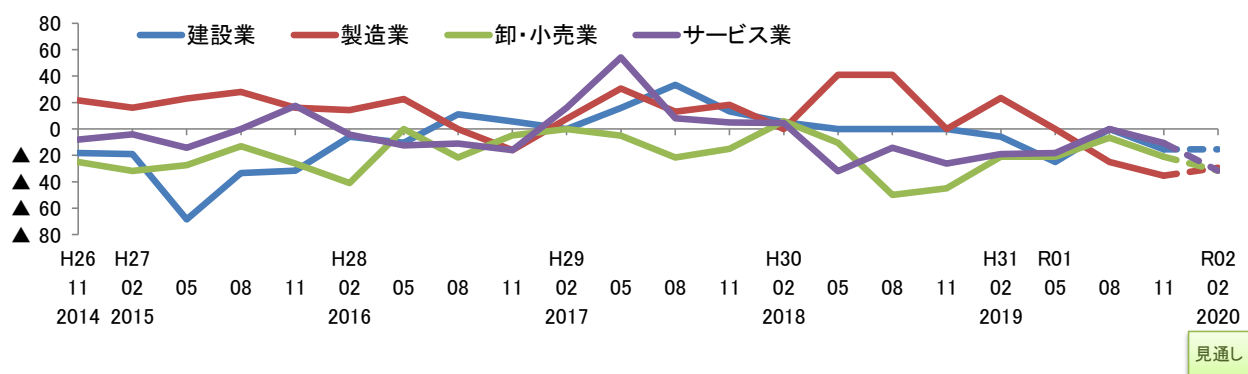
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲20.6（前回調査比 12.5 ポイント下落）と悪化となった。業種別にみても、すべての業種で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲28.0（今回調査比 7.4 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



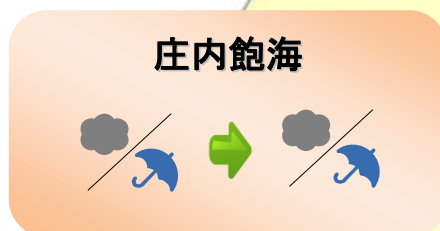
前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 30. 11 (n=84)	▲ 17.9	(▲ 13.9)	4.0	0.0	0.0	▲ 45.0	▲ 26.1
H 31. 02 (n=74)	▲ 6.8	(11.1)	▲ 15.5	▲ 5.9	23.5	▲ 21.0	▲ 19.0
R 01. 05 (n=79)	▲ 15.2	(▲ 8.4)	▲ 18.9	▲ 25.0	0.0	▲ 21.1	▲ 18.2
R 01. 08 (n=74)	▲ 8.1	(7.1)	▲ 30.4	0.0	▲ 25.0	▲ 6.7	0.0
R 01. 11 (n=68)	▲ 20.6	(▲ 12.5)	▲ 13.5	▲ 15.4	▲ 35.3	▲ 21.0	▲ 10.6
前回調査比	-	-	-	(▲ 15.4)	(▲ 10.3)	(▲ 14.3)	(▲ 10.6)
先行き見通し	▲ 28.0	-	-	▲ 15.4	▲ 29.4	▲ 31.6	▲ 31.5
今回調査比	(▲ 7.4)	-	-	(0.0)	(5.9)	(▲ 10.6)	(▲ 20.9)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							



	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

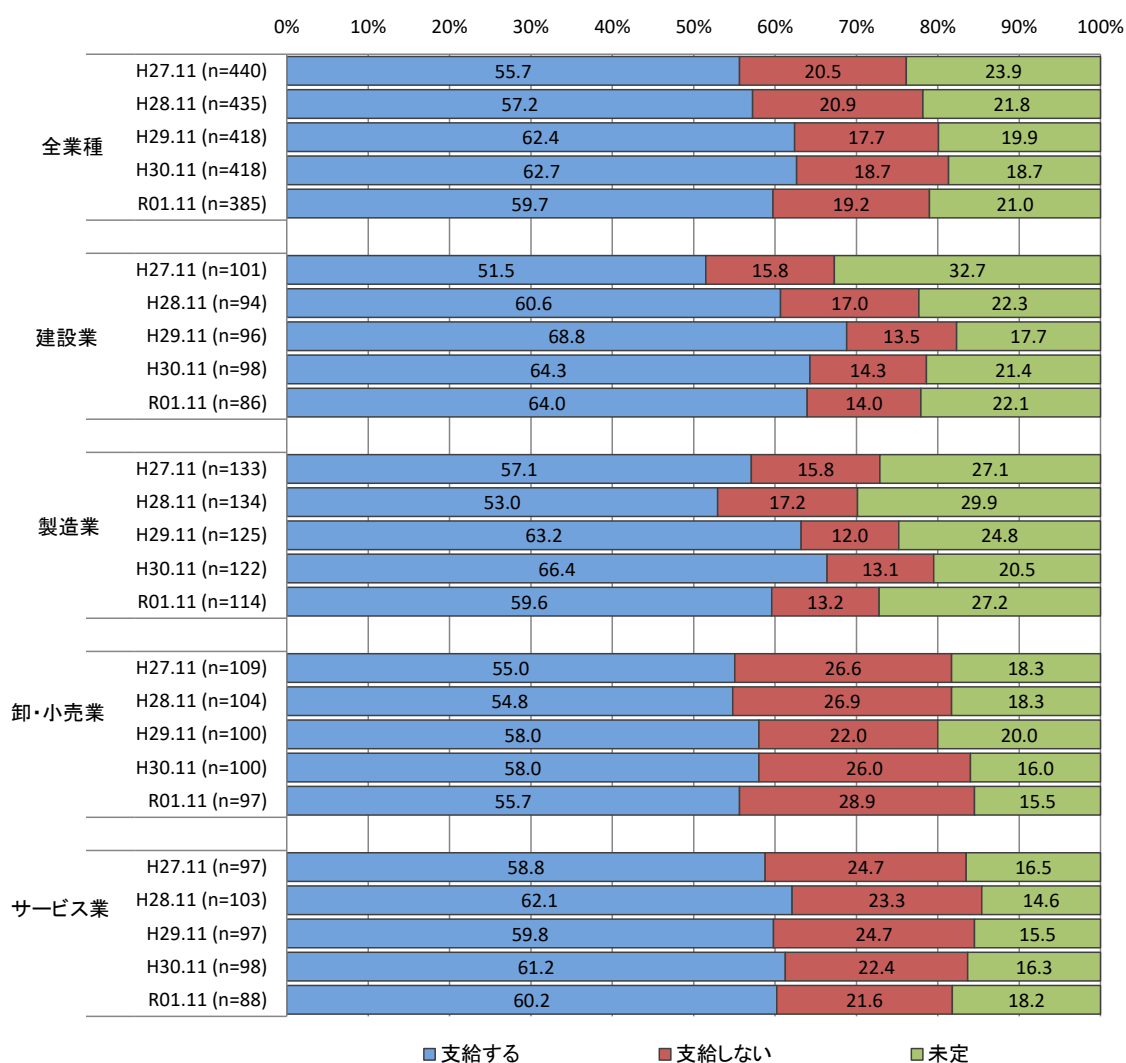
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 59.7%（前年比 3.0 ポイント低下）と、平成 24 年 11 月調査以降 7 年連続で上昇していたが、このたび 8 年ぶりに低下となった。

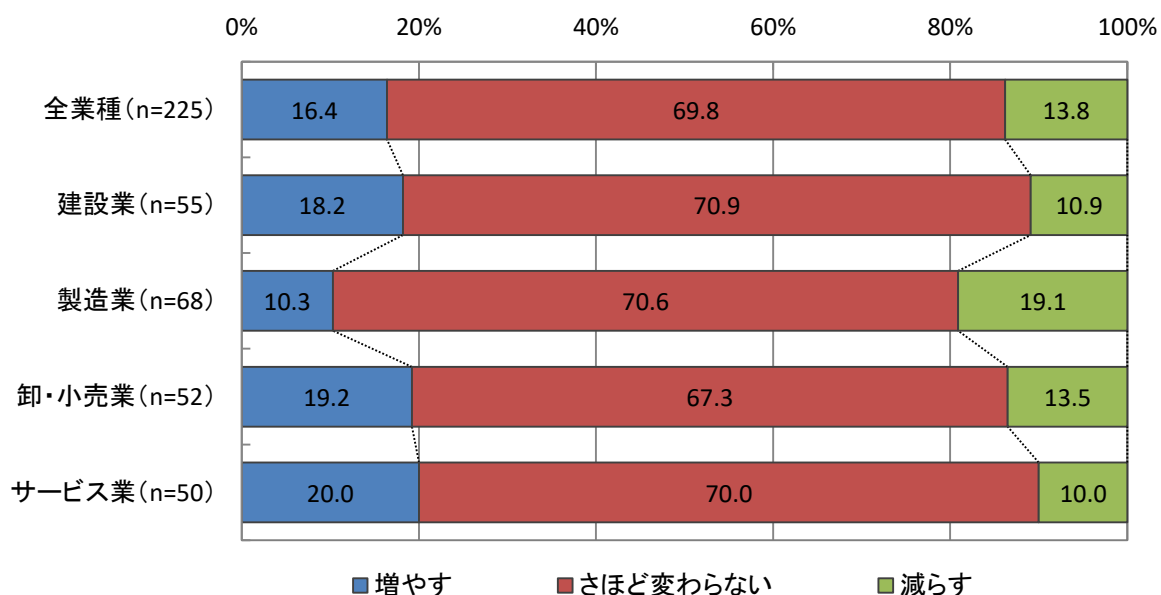
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 64.0%（前年比 0.3 ポイント低下）、製造業が 59.6%（前年比 6.8 ポイント低下）、卸・小売業が 55.7%（前年比 2.3 ポイント低下）、サービス業が 60.2%（前年比 1.0 ポイント低下）と、すべての業種で低下となった。

図表 25 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、69.8%であった。業種別にみると、製造業で「減らす」の割合が他業種に比べて高くなっている。

図表 26 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



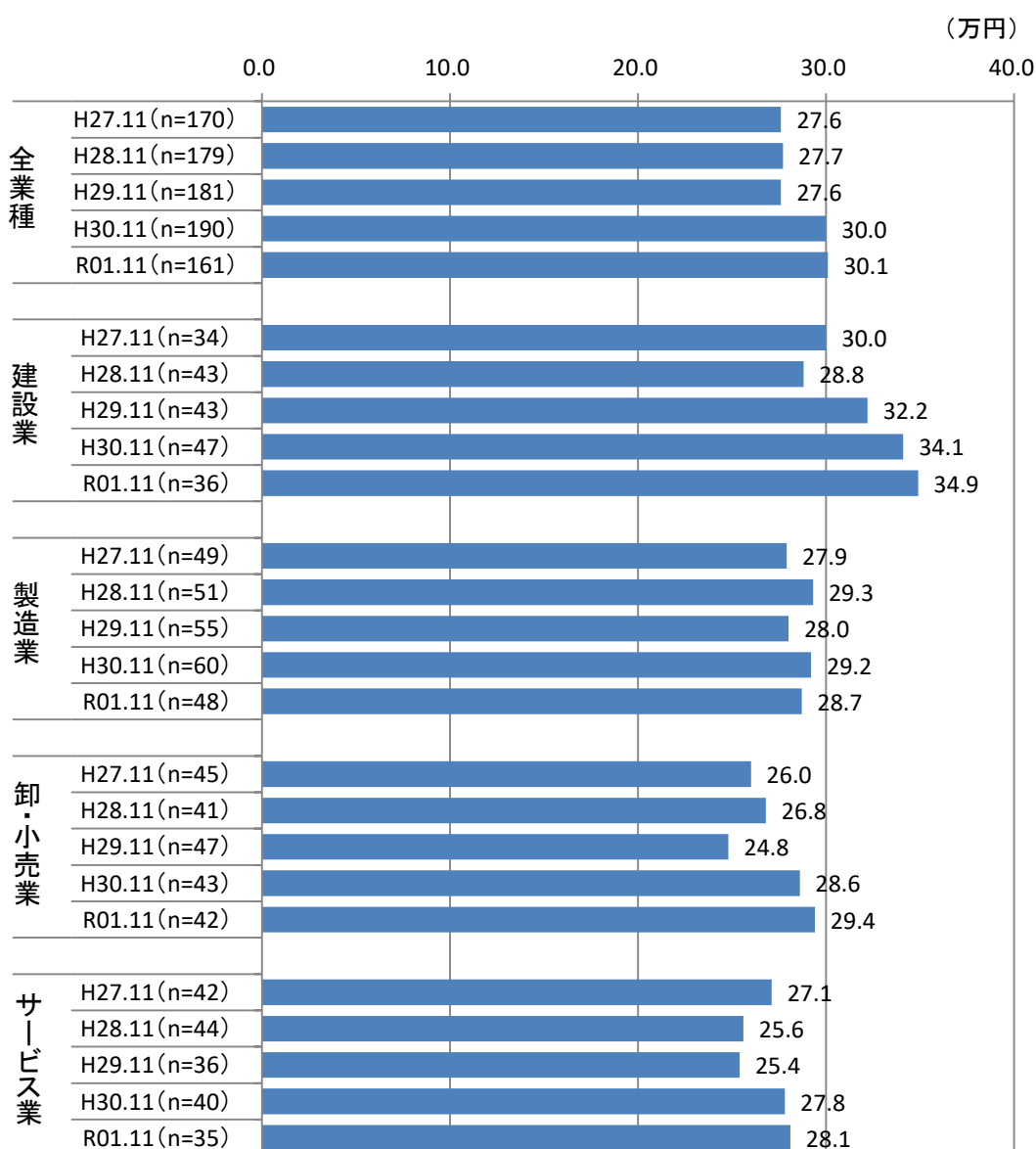
(2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 30.1 万円となり、前年に比べ 0.1 万円の増加となった。業種別にみると、前年に比べ、製造業では減少し、その他の 3 業種で増加した。平均支給予定額が最も高いのは建設業で 34.9 万円となり、最も低いのはサービス業で 28.1 万円であった。

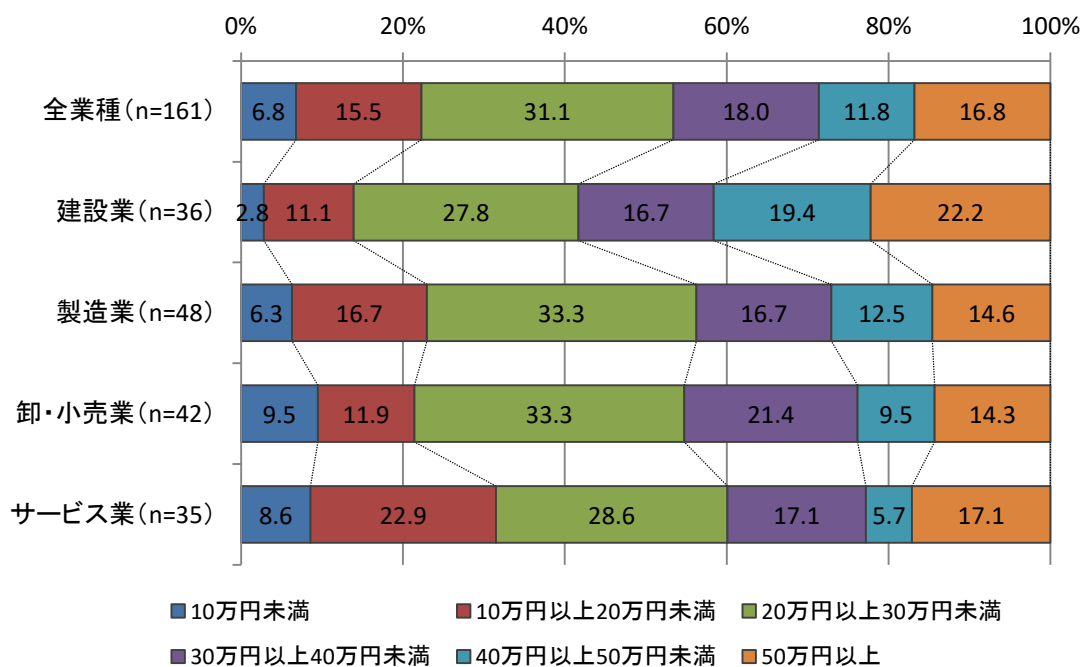
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、31.1%となっている。業種別には、建設業で「50 万円以上」が 22.2%と他業種に比べて高い。(図表 28)

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、37.4%となっている。業種別にみると、卸・小売業では、2.5 カ月以上を支給する企業が 0.0%という結果となった。(図表 29)

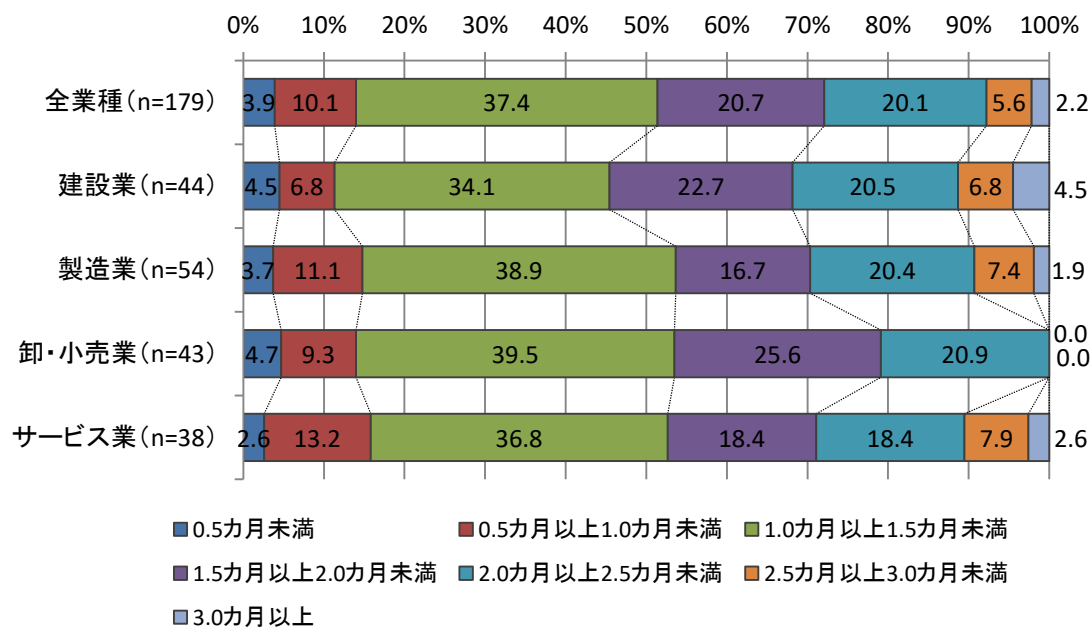
図表 27 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 29 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	35	46	55	158
村山北部	20	34	17	18	89
最 上	21	18	10	18	67
置 賜	23	30	25	13	91
庄内田川	30	38	29	29	126
庄内飽海	34	34	31	37	136
合 計	150	189	158	170	667

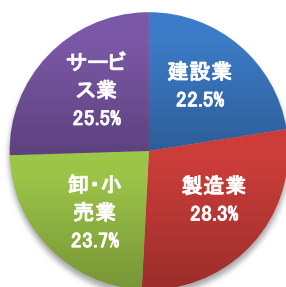
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	16	23	29	40	108
村山北部	12	19	13	9	53
最 上	16	9	6	4	35
置 賜	11	24	12	6	53
庄内田川	18	22	18	10	68
庄内飽海	13	17	19	19	68
合 計	86	114	97	88	385

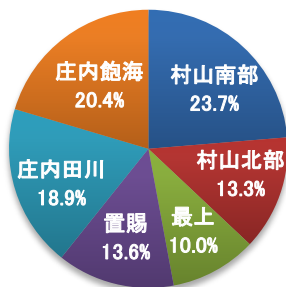
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	72.7	65.7	63.0	72.7	68.4
村山北部	60.0	55.9	76.5	50.0	59.6
最 上	76.2	50.0	60.0	22.2	52.2
置 賜	47.8	80.0	48.0	46.2	58.2
庄内田川	60.0	57.9	62.1	34.5	54.0
庄内飽海	38.2	50.0	61.3	51.4	50.0
合 計	57.3	60.3	61.4	51.8	57.7

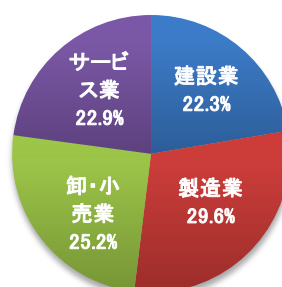
サンプル割合（業種別）



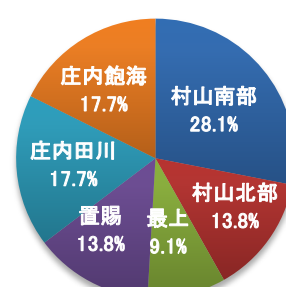
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和元年 11 月 1 日（金）～14 日（木）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp

URL : <https://www.fir.co.jp/>